

ホームページ <http://www.nihonkanpoukyokai.com/>

E-mail j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

日本漢方協会通信

2023年2月

日本漢方協会総合講座を受講して（2023年1月15日）

会員 豊岡寿美

新しい年が始まり、今年初めての講座を受講してまいりました。

「漢方の基礎理論：気血水」では、「気血水は相互に関連しあっているため、単独ではなく、複数の症状が同時に起こる。主症と客症を見極めることが大切！」に深く納得いたしました。そして見極めるためには問診をしっかりとすることが大切なのでしょうね。

「気血水」については今まで勉強してきてわかったつもりでいても、自分の不調でさえすっきり見極めることは難しいと感じております。また、各病態の代表処方例について気血水の○の大きさを示して頂いたことにより、その処方の働き方がとてもわかりやすかったです。

「生薬解説：山椒・膠飴」ではまず「蜀椒」が神農本草経の下品というのは意外でした。山椒はお料理にも使いますし「大建中湯」のイメージなので毎日服用でき消化器系に良いもので上品だと思っておりました。あの辛味と香りは取りすぎてはいけないということでしょうか。そして神農本草経の上品に「秦椒」がありますが、基原植物が違うことで同じサンショウ属でも上品と下品に分類されているのは働きがそれだけ違うということでしょうか。

また山椒は雌雄異株で種子は除いて使うことは知りませんでした。山椒の枝の棘も実際に見ると鋭くてびっくりしました。

「漢方トピックス」は「冷え症の漢方治療」でまさに大寒の今にぴったりのお話でした。まず、「現代人で冷えていない人はいない。」と先生はおっしゃいます。そして現代人の不調のほとんどは「冷え」が原因で「冷え」をためない生活が大切と。

確かに冷えることでかぜをひいたりお腹をこわすだけでなく、気血水の流れが悪くなることによりさらに症状は広がるのですね。そして西洋薬は冷やす薬しかないのなら、漢方薬こそ現代人に必要ということでは。

メインの処方に人参湯や真武湯、四物湯、附子などを加えることで効果がぐっとあがるという先生の治療例はとても参考になりました。

また今まで「トイレが近くて冷えもある」中高年なら八味丸と思いこんでいましたが、八味丸は消化器系が弱いと難しいこともありました。先生のお話では苓姜朮甘湯も効果あり、腰冷え下肢痛にもよいということなので自分の周りにも勧めてみようと思いました。